

パリコミューンと 先進国革命

法学部学生会企画

講演 滝口弘人 (社会運動家)

29日 PM1:00 4 番教室

1871年3月18日の夜明けは「コミューン万歳！」の響きと共に迎えた。それはわずか73日間であったが、虐げられ、奴隷として扱われていた労働者階級の解放への夜明けであった。

所有する階級に対して生産する階級の永い苦闘の勝利として実現されたパリ・コミューン＝労働者階級の政府は、同時に人間の普遍的解放に向う政治形態であった。

パリに労働者階級の政府が実現するや否や、それまでお互いに戦争をしていた普仏の有産階級は、直ちに連合し、労働者階級のパリを圧殺した。73日間のパリ・コミューンの歴史的経験は、1917年のロシア革命と並んで、世界のプロレタリア人民にとって忘れることの出来ない栄光の歴史である。

インドシナ半島において、ポーランドにおいて、イタリア、フランスにおいて、アメリカにおいて、労働者階級の闘いは、鮮血の旗をより一層染め上げ、不屈の前進を続けており、日本においても、三里塚の地で、沖縄で、工場、学園で、自らの普遍的解放への闘いが続いている。

パリ・コミューンによって獲得されたプロレタリア革命への原則の復権を目指して、有産階級との熾烈な闘いを闘い抜き、帝国主義ブルジョア政府打倒！労働者政府樹立へ向けて闘おうではないか。

「労働者のパリは、そのコミューンと共に、新社会の光栄ある先駆者として永久に讃えられるであろう。その殉教者は、労働者階級の偉大な胸の内に祭られているのだ。」 [仏の内乱]

新しく生み直され発動されんとした70年アジア・太平洋圏安保粉砕闘争の中から、労働者革命勝利への新たな戦いの幕は切っておとされた。60年安保・三池の苦い敗北の中から自からの小ブルジョアの利害と活動と決定的に区別し、商品所有者と決定的に区別し、商品所有者の生活と世界に対し、労働者階級の生活と世界において運命をたて切ることとして闘いと団結の発展を獲ち取ってきた労働者階級は、帝国主義ブルジョアジーに対し、個々の政策の撤回や、賃金と労働条件の改善ではなく、彼らの階級支配そのものの打倒を宣言し、血みどろの決戦にいどみはじめた。

「現代」とは、後進国から先進国への世界資本主義の危機の波及深化と、すでに勝利した、又闘いつつある後進国一國革命の限界、そして先進国プロレタリア同時革命こそが、真の「解決能力」として全世界のプロレタリア、被支配人民の課題として増々リアルなものとして突き出されている。世界革命＝永続革命は、国際ブルジョアジーの階級形成の現段階を踏え、後進国一國革命の爆発の第一段階の終焉と先進国同時革命の第二段階への突入という新たな段階を迎えているものとして把握する。この先進国革命は、これまでの後進国

革命のもつ古い幻想と限界を飛躍的に突破して根源的な革命として闘われる。

日本階級闘争は、これまでの後進国革命の経験に引きずられて来た、汚物にまみれた旧い革命論との決定的な、飛躍的な訣別が瞬間的に問われながら70年代階級闘争が闘い抜かれる。これまでの先進国プロレタリアートの革命性は長年「神話」として語られ、一方に於る期待と、激しい失望をくり返し、後進国の農民民主主義の外観的ラディカリズムに引きよせられながら、それを通して先進国革命の「前衛」であるとされて来た。それは、後進国農民・労働者の政治的社会的隷属の浅さとして、資本の社会的権力と国家の政治権力の未熟さ、更に後進国ブルジョアジーの「解決能力」の未熟さと、先進国プロレタリアートの隷属の深さ、先進国プロレタリアートの団結の解体・階級的自立の欠除の問題として把える。帝国主義段階に於ける、極度に発展した分業を基礎に、国家と資本の巨大な発展は、それだけ一層の隷属の完成であり、かつ包摂する力の増大である。故に、プロレタリアートの闘いは、この国家と資本の「発展」が、労働者の発展ではなく、制限・桎梏の拡大深化であり、国家の転覆と資本の力、それに伴う賃労働の廃棄への闘いが革命的闘いであり、ラディカルな革命なのだと言える。資本のもつ社会的権力と、国家政治権力との闘いは、プロレタリアートの「旧い共同体」にとって代る「新たな共同体」の発展と一つのものとしてのみ、勝利することが出来る。ブルジョア社会の強みは、単に官僚的軍事的統治機構の強さにあるのではない。真の強みは、資本の下へ隷属させる社会的権力と隷属を進展だといくくるめることの出来る共同体の秩序の中で育てられる「新」旧中間層にその秘密がやどっている。

現在から次のように、問題を鮮明にしておかねばならない。“ファシズムかコミューンか”“帝国かコミューンか”と！

スターリニズム、社民、トロツキズムは、ますます歴史の中でその存在意義が厳密に問われている。そして、それらのみせかけの「革命性」、みせかけの「激情」、みせかけの「死を賭した闘い」、みせかけの「理論」が、真実の生きた血と肉をもったプロレタリアートの苦悩を激情と闘いと科学の前に色あせた、保守的な腐敗した、無知な姿をさらけ出す。今日、プロレタリア運動にとって、自分自身を豊かに発展するために、これらの古い闘争と古い団結に凝結していた疎外された新旧の「前衛党」を粉碎し、ゲリラ戦に基礎をおく、生きたコミューンとしてのソビエト、労働者党を自からの生き抜くための共同体として形成していくことが歴史的な任務となっている。

永続革命＝世界革命第二段階の70年代先進国プロレタリア同時革命を勝利せよ！